

補償について規定した実定法には、土地収用法、河川法、道路法、都市計画法、鉱業法、森林法、特許法、実用新案法、地方自治法、地方鉄道軌道整備法、道路運送法等がある。これらの法律に規定する補償の経済的性質を民法上の関係に比較すると、売買代金に相当するもの、あるいは賃借料に相当するもの、または損害賠償に相当するもの等があり、その性格は一定していない。またその補償金額の決定方法も場合により異なり、法律上これを定めている場合、行政庁が一方的に決定する場合、当事者間の協議によって定める場合等種々ある。

地方鉄道軌道整備法(昭和28年法律第169号)および道路運送法(昭和26年法律第183号)は国鉄(国)の鉄道事業または自動車運送事業の経営にもとづく補償について、つぎのような規定を設けている。

1 地方鉄道軌道整備法による補償

国鉄が地方鉄道または軌道に接近もしくは並行して鉄道線路を敷設し運輸を開始したため、当該事業者がその区間の営業を継続できなくなり、これを廃止したとき、または当該事業の収益をいじめるしく減少することとなったときは、国鉄は当該事業者に対しその損失を補償するものとする。残存路線のみでは営業を継続することができなくなり、これを廃止したときも同様とする(第24条第1項)。なお第25・26・27条において、これらの補償金額の算出方法を定めている。

2 道路運送法による補償

国鉄が路線を定める自動車運送事業を経営したため、これと路線を共通にする民営の自動車運送事業者が、その区間の営業を継続できなくなったとき、またはいじめるしく収益が減少することとなったときは、国鉄は政令の定めるところにより、当該民営自動車運送事業者に対し、その損失を補償することができる。その者がその路線を共通にしない部分につき、事業を継続して経営することができなくなったときも同様とする(第77条)。

参考文献 田中二郎著 行政法上巻(1953)。美濃部達吉著 日本行政法上巻(1941)。(秋山太郎)

ほじょかいてんき 補助回転機(電気車の) (英) auxiliary rotating machine (electric rolling stock) 電気車に使用される各種の電気回転機のうち、直接車両の駆動動力源として用いられるもの(主電動機、主発電機)に対し、駆動には直接関係なく制御装置または各機器の作動・駆動に用いられるものを総称して補助回転機と呼んでいる。

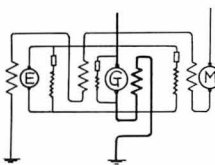
1 電動発電機および発電機

電気車の制御回路や灯回路に直接電車線電圧を用いることは、電圧の変動が大きい上に危険性が多く、また機器の絶縁等も複雑になり高価となるので、一般には100V前後の低圧が用いられている。

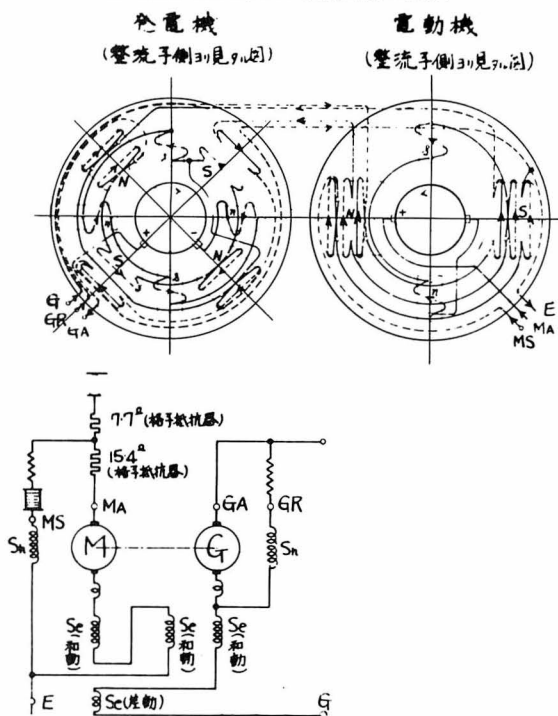
わが国では一部特殊なものを除きすべて直流100Vが採用されている。この低圧電源を得るためにもっとも多く使用されるものが電動発電機で、これは電車線電圧により運転する電動機と、それに直結された発電機とからなっている。

低圧側の負荷には余り電圧が変動しては困るものがあるので、電動発電機としては電車線電圧や負荷が広範囲に変化しても、低圧側電圧が余り変動しないものでなければならない。発電機電圧を一定に保つ方法には電圧調整器を用いるものと、発電機自体にそのような特性をもたせたものがあり、後者は励磁機を備えたもの、非直線性抵抗器を使用したもの、クロス界磁を

1. MH49-DM 28.2 KW 電動発電機つなぎ図



2. MH77-DM 44.3 KW 電動発電機つなぎ図



用いたものなど種々の方式がある。

(1) 電圧調整器付電動発電機 発電機電圧の変化によって作用する電圧調整器で、界磁コイルに直列に挿入された抵抗を変化することにより、界磁の強さを加減して電圧を一定に保つようにしたものである。

(2) 励磁機付電動発電機 電機子の回転速度の変化によって急激に発生電圧の変化する励磁機を直結し、その励磁機電圧によって電動機を励磁する方式のものである。いま電車線電圧が低下して電動機速度が下ると、励磁機電圧が低下し電動機の界磁磁束を減ずるから、速度は再びより回転数がほぼ一定に保たれるので、発電機界磁磁束の増加と相まって発電機電圧はほぼ一定に保たれるのである。従来の電気車に広く用いられている。

(3) 非直線性抵抗器付電動発電機 これは励磁機を用いるかわりに、電動機の方巻界磁抵抗の一部に非直線性抵抗器〔*抵抗器(電気車の)〕を使用して、電車線電圧の変動に対して分巻界磁の電流を適當の割合に変化させ、界磁の強さを変えることによって回転数をほぼ一定に保ち、発生電圧をほぼ一定に保つようにしたもので最近広く用いられている。

(4) クロス界磁付電動発電機 励磁機がなくして発電機の主界磁のほかクロス・フィールド・ポールと称する特殊の磁極が設けてあって、主界磁は飽和させ、クロス界磁は未飽和としておき、発電機電圧は両界磁により生ずる電圧の差を取り出すようにしたものである。両界磁の飽和の程度を適当に選べばある範囲内ではほぼ一定電圧を得ることができるが、他のものに比較して電圧変動率が大きく、整流もよくない。励磁機がないので機械の容積を小さくできる利点はあるが現在では余り用いられていない。低電圧を得るために用いられるものには上記のほかには発電機がある。

(5) 発電機 これは電機子鉄心に2組の電機子コイルが設けられ、これを直列に接続し、その一方の電機子コイルから電